

広報

# あしや

935号

令和元年 (2019)

8月1日



祭りの熱を  
冷ますひととき

7月14日 祇園山笠大祭



# 寄添者<sup>よそもん</sup>ですが何か!?

よそもん  
寄添者とは、「人」に「町」に「心」に寄り添いたい者という意味です。

芦屋町地域おこし協力隊卒業後の寄添者コーナー。今年度は、芦屋町に魅せられ引き寄せられた皆さんに、寄添者視点からの魅力などをうかがっていきます。  
▷問い合わせ 広報情報係  
(☎223局3569)

## 夏真っ盛り！芦屋の夏は祇園山笠から

夏本番を迎える7月中旬、山や樹木、波などを模した山車<sup>だし</sup>が町を練り歩く祇園山笠が始まります。鐘や太鼓の音が町にひびきわたり、にぎやかになると、人びとは元気をもらいます。山車をひくのは、そろいの法被<sup>はっぴ</sup>にねじり鉢巻を絞めた皆さん。その中の一人、鬼塚裕一さんが今回紹介する寄添者です。

鬼塚さんは11年前、結婚を機に芦屋町に住み始めました。始めの頃は、町外に仕事に出ていたため、近所づきあいも全くありませんでしたが、子どもが保育園に通うようになった時、声を掛けてくれた吉永藤綱さん（幸町）との出会いで、芦屋の生活が一変します。



鬼塚裕一さん（右）と  
吉永藤綱さん（左）



△山車の飾りは事前準備から参加



△初日は雨のため、飾り山にビニールをかけて



△町を練り歩く山車

## 新しい出会いで人とつながる楽しさ

生まれも育ちも芦屋町の吉永さんが、さまざまな町の人や場所を紹介してくれたおかげで、人と人とのつきあいが一気に広がり、芦屋生活の楽しさを実感していると鬼塚さん。極めつけは、祇園山笠へのお誘いだったとか。地元の祭りに馴染めるだろうか当初は考えていたようですが、いざ参加してみると、地域の皆さんが大手を広げて迎え入れてくれたので、すんなりと参加でき、さらに友だちもたくさん増えたそうです。

## 祭りは地域のコミュニケーションツール

災いを除くお清めの意味がある金銀の丸い飾りを各家庭に手渡すことで、無病息災を願う地元の人と祭りのつながりを知った鬼塚さん。祭りに参加する意味をさらに感じることに。吉永さんは「彼のように祭りを楽しみながら参加してくれることが本当にありがたいですね」と感謝の言葉。それに対して鬼塚さんは「きっかけは子どもたちだが、誘ってくれた吉永さんをはじめ、快く受け入れてくれた多くの皆さんのおかげで地域にとけ込むことができました。引っ越してきて間もない皆さんにも、ぜひ参加して楽しんでもらいたいです」と話していました。

## 編集後記

▼7月はKBC九州朝日放送のふるさとウィッシュで芦屋町特集から始まり、テレビの録画をしたり、取材に行ったりなんだかそわそわした一週間でした。3ページにも記事を書かせていますが、新情報なども見たり聞いたりして書ききれないこともたくさんです。中でも「60市町村対抗！小学生が30秒のバスケットフリースロー対決」では7月末現在、放送済みの28市町村のうち、31個人入れた芦屋小学校が暫定1位。子どもたちの集中力に大拍手ですね。今後も1位をキープしていくのが目が離せない状況です。（鉄守）

▼東京オリンピック開幕まで1年を切りましたね。チケットの発売日には申し込みが殺到。何時間待ってもつながらないほどたくさんの方が公式サイトにアクセスしていたようです。かく言う私も申し込み2時間ほどチャレンジしましたが、その日はあきらめました。翌朝早くにやってみると、意外にも10数分で申し込みが完了。2つのチケットを申し込んだ結果、1つに当選。来年の今ごろは東京でオリンピックを観戦しているでしょう。来年も広報担当者だったら、現地の雰囲気などを伝えたいと思います。（艶島）

この広報は、再生紙を使用しています。